

第9回グローバルヘルス
戦略推進協議会

令和6年7月22日

資料1-2

グローバルヘルス戦略フォローアップ 財務省補足資料

UHCナレッジハブ (UHC Knowledge Hub)

1. 経緯

〔2024年4月18日世銀主催UHC推進イベントにてスピーチする鈴木財務大臣〕



〔2024年5月28日第77回世界保健総会にてスピーチする塩崎政務官〕



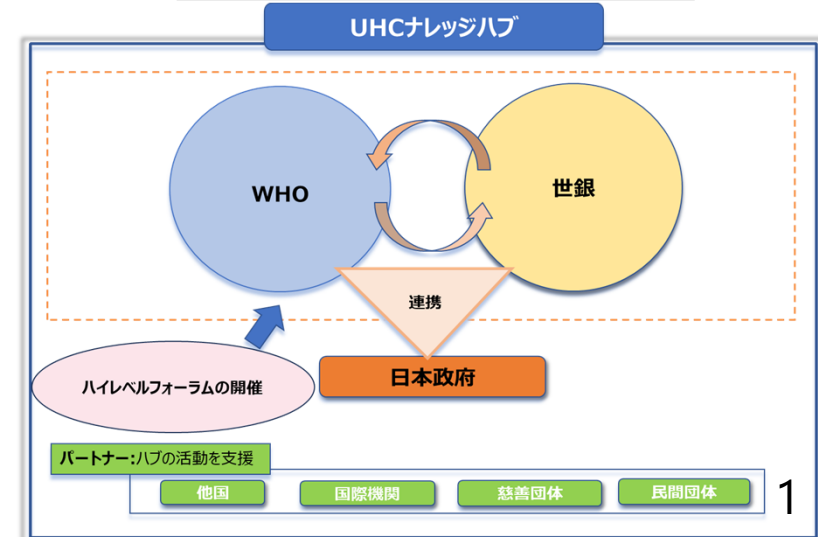
- 日本は、従来より、人的資本の開発及び持続的な成長の基盤として、**ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) ※の重要性を強調**。世銀・WHOと共に、途上国のUHC達成に向けた取組を推進。

※ 全ての人々が、基礎的な保健医療サービスを、必要な時に、負担可能な費用で享受できる状態。

- 2023年5月、G7広島首脳コミュニケにおいて、**UHCに関わるグローバルなハブ機能の重要性を確認**。
- 2024年4月、WHO及び世銀と連携し、途上国のUHC達成に向けた取組を支援するため、「**UHCナレッジハブ**」を**2025年に日本に設置**することを発表。
- 同年5月、G7財務大臣・中央銀行総裁会議声明（於：伊ストレーザ）において、UHCナレッジハブの設立を歓迎。
- 同年5月、第77回世界保健総会において、UHCナレッジハブを**東京エリア**に設置すること等を発表。
- 同年6月、G7プーリア首脳コミュニケにおいて、UHCナレッジハブを通じて、UHCを推進することを確認。

2. UHCナレッジハブの主な取組 (予定)

- UHC（保健財政など）に係る**知見の収集・共有**。
- 途上国の財務・保健当局者の**人材育成**。
- 日本の知見・経験の活用**（少子高齢化の中で質の高いUHCを維持するための取組など）。
- 関係機関の代表を集めた「**UHCハイレベルフォーラム（仮称）**」の開催。



パンデミック対応のための資金に関するG7・G20の議論

〔背景〕

- 昨年5月に日本議長下で取りまとめた**G7財務大臣・保健大臣の「共通理解」**に基づき、世銀・WHO が、G20財務・保健合同タスクフォースと協力し、**パンデミック対応のための既存の資金メカニズムのマッピング分析**を実施し、**機能面のギャップを特定**。

〔2024年の議論〕

- G7財務大臣・中央銀行総裁会議（5月23日-25日、於：伊ストレーザ）において、昨年の「共通理解」以降の、世銀の危機対応ツールキット(※)等の**対応資金に関する進展を歓迎**。また、残された機能ギャップに対処するため、G20財務・保健合同タスクフォースと連携し、**対応資金の革新的なメカニズムに関する検討の継続**を再確認。
 - ※ 借入国が未ディスバース残額の最大10%を危機対応向けにrepurposeを可能とするRapid Response Option(RRO)の導入等。
- 本年のG20財務・保健合同タスクフォースにおいても、パンデミック対応資金に係る議論を継続。**危機発生時のシミュレーション**を実施し、**パンデミック対応の資金面の行動手順をまとめた文書（オペレーショナル・プレイブック）**を作成予定。

パンデミック基金（Pandemic Fund）

- ドナーの貢献表明総額は**約20億ドル**（2024年6月時点）。日本は、**計7千万ドル**の貢献を表明。
- 昨年7月、「予防」「備え」に焦点を置いた第1回案件として、19案件、総額338百万ドルを採択。昨年12月に第2回目の案件募集を開始し、本年10月までに案件採択予定（総額500百万ドル規模）。
- 今後5年間の活動戦略として**中期戦略計画**を策定。
 - ✓ 基金の独自価値を、**能力ギャップの解消、連携の促進、追加投資の動員、状況変化の中での柔軟性と対応力**、と定義。
 - ✓ 優先分野として、**サーベイランス強化、研究所システム強化、公衆衛生関連人材の育成**を位置づけ。